



はちまん 八幡神社の獅子舞

「注連掛け」



八幡神社には、平安時代の正暦2年(991)、鎌倉時代の文治3年(1187)の紀年銘がある棟札が保存されています。鎌倉の鶴岡八幡宮から勧請したと伝えられており、社宝に、正嘉2年(1258)の銘が入った金剛盤(町指定有形文化財)が伝存していることから、鎌倉時代には存在していたことが明かです。

明治40年以降に大字地内の琴平神社と岩屋神社を本殿に、境内に山神社と蚕影神社を合祀しています。

本殿は町指定有形文化財。

【獅子舞の由来】

享保年間(1716～36)に、成瀬村(現大字成瀬)の諏訪神社の祭礼で行われていた獅子舞を、津久根村の操り人形芝居と交換して始められたと伝えられています。戦時中から戦後にかけて数度の中断や中止を経て、昭和48年に保存会を組織して再興されました。



庭(演目)

- | | | |
|--|---|--|
| 1. 初庭
「注連(七五三)掛け」
舞場に注連縄をかけます。三獅子で神社にお参りをしますが、やがて大獅子と中獅子が雌獅子を取り合う喧嘩を起こします。 | 2. 中庭
「四幕抱き」
牡丹の花が見事に咲いた野原に見物に出かけ、再び雄獅子同士が喧嘩が始まります。 | 3. 終庭
「花掛け」
大獅子と中獅子が和解して仲良く三獅子で武蔵野を帰っていくという内容です。 |
|--|---|--|



「雌獅子隠し」

すみよし 住吉神社の獅子舞



住吉神社には、社造立時の慶長3年(1598)銘の棟札があったと伝わっています。戦国時代の城山(＝大築城。ときがわ町境の尾根上の自然要害地形を利用して築かれた山城)築城に際して、この地に住み着いた草分けの人々が、氏神として祀ったのが起源といわれています。

【獅子舞の由来】

薄村(現秩父郡小鹿野町両神薄)の諏訪神社に奉納されている「竹平の獅子舞」(小鹿野町指定無形民俗文化財)を、熊次郎と長助という2人の師匠が当神社に伝授したと伝わっています。昭和40年代の後継者不足で奉納が休止となる時期を経て、同50年に保存会が結成されて復活しました。



庭(演目)

- | | | |
|--|--|---|
| 1. 「四方掛け」
獅子がお宮参りをし、社殿を褒め称える庭です。花子が四隅の定位置につき、三獅子が舞います。 | 2. 「花掛け」
花園で三獅子が楽しく遊ぶ様子を表した舞です。 | 3. 「飛ばけ」
花見の最中にそれぞれを探し歩くというもので、横一列に並んだ花子の間を三獅子が通り抜けます。 |
| 4. 「雌獅子隠し」
花子に隠れた雌獅子を探す舞と、雌獅子を奪い合う大獅子と中獅子の激しい喧嘩が演じられます。 | 5. 「一つ花」
花に見立てた花子の中から一人を名花として選ぶ舞です。 | |



「三つ廻り」

うめその 梅園神社の獅子舞



梅園神社は、元は小杉天神社または天満宮と呼ばれており、南北朝時代の観応元年(1350)～江戸時代の嘉永5年(1852)までの28枚の棟札が現存しています。

明治40年に堂山の近戸神社、上谷の三島神社を合祀して、社号を梅園神社に改称しました。本殿は町指定有形文化財。

【獅子舞の由来】

飯能市高山の三輪神社の「高山の獅子舞」(中断中)から伝授されたと伝わっています。昭和30年代初め頃から後継者不足などを理由に中断されていましたが、昭和50年に200戸を超える氏子たちの寄付や熱意によって復活しました。



庭(演目)

- | | |
|--|--|
| 1. 「庭摺り(幣掛け)」
本祭に獅子宿で舞われ、この年に獅子舞に仲間入りする子どもたちが演じます。 | 2. 「一つ廻り」
神社の境内に入り、土俵に立てた御幣の周りを三獅子が舞い踊ります。 |
| 3. 「三つ廻り」
「三つ鞠」ともいい、2本の笹竹に吊り下げられた3つの鞠で、三獅子が楽しく遊び戯れる庭です。 | 4. 「雌獅子隠し」
花畑に隠れた雌獅子を若い2頭の雄獅子が奪い合います。 |
| | 5. 「白刃」
大獅子と中獅子が太刀を咥えて切り合います。その後、両手に太刀を持った雌獅子が、三番叟を舞い、喧嘩を仲裁します。 |



東山神社の獅子舞



地に遷座して改称されました。

【獅子舞の由来】

室町時代に多門寺住職の教伝が秩父地方から習得したと伝わっています。天和年間（1681～84）に住職英秀がつくった獅子頭を祈雨のために神前に供える習わし（雨乞獅子）があったとの伝承もあります。戦後の昭和27年と同34年に行われた後途絶え、同50年に復活し、翌年11月23日には社殿の改修造営記念で奉納されました。



庭(演目)

1. 「宮参り」
獅子舞一行が社殿の周りを三巡します。
2. 「すっこみ」
花掛りの一部分を舞います。
3. 「花掛り」
花の中で三獅子が楽しく踊り遊ぶ舞です。
4. 「願獅子」
「願ざさら」ともい、花代をあげて願い事を祈願してもらう舞で、社殿の周りをまわります。
5. 「竿（棹）掛り」
竿を大きな谷間に見立て、谷向こうの雌獅子をめぐって、中獅子と大獅子が何度も竿を押し渡ろうとします。



◎八幡神社の獅子舞 町指定無形民俗文化財(昭和49年11月28日)



〔日程〕10月15日に近い日曜日、前日の土曜日
〔場所〕八幡神社（津久根23番地）
〔継承団体〕津久根獅子舞保存会
〔みどころ〕大祭日には獅子舞一行が津久根区内を巡行し、境内に戻ると、躍動感あふれる華麗な舞が演じられる。

◎住吉神社の獅子舞 町指定無形民俗文化財(平成9年4月1日)



〔日程〕10月15日に近い日曜日
〔場所〕住吉神社（麦原383番地）
〔継承団体〕麦原獅子舞保存会
〔みどころ〕「雌獅子隠し」では、雌獅子をめぐって、雄獅子が息も絶え絶えになるほどの激しい喧嘩を繰り広げる。

◎梅園神社の獅子舞 町指定無形民俗文化財(平成9年4月1日)



〔日程〕10月25日に近い土曜日、日曜日
〔場所〕梅園神社（小杉1番地）
〔継承団体〕梅園獅子舞保存会
〔みどころ〕小学生から青年まで、年齢層の異なる役者が各庭を懸命に演じ、「白刃」の三番叟で大詰めを迎える。

◎東山神社の獅子舞 町指定無形民俗文化財(平成9年4月1日)



〔日程〕11月23日に近い土曜日、日曜日
〔場所〕東山神社（上野1048番地）
〔継承団体〕上野獅子舞保存会
〔みどころ〕男児が務める花子、竹竿を挟んで雄獅子が対峙する「竿掛り」など、個性的な獅子舞が奉納される。

※年によって開催日が異なります。事前にご確認ください。

【主な参考文献】

『入間地方獅子舞辞典』石川博司 2008
『越生町の獅子舞』石川博司 2002
『越生の歴史II 近世』越生町教育委員会 1999
越生叢書1『おごせの祭り」と芸能』越生町教育委員会 1992
『新編埼玉県史 別編2 民俗2』埼玉県 1986
埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第四集『獅子舞の分布と伝承』埼玉県教育委員会 1982

編集：越生町教育委員会 生涯学習課文化財担当

〒350-0416 埼玉県入間郡越生町大字越生917番地
☎049-292-3121(代) <http://www.town.ogose.saitama.jp>
令和6年10月1日発行

印刷：コミニカ企画株式会社



越生の獅子舞（ささら）

獅子舞は日本全国で行われている民俗芸能で、埼玉県内でも二百ヶ所以上で伝承されていました。後継者不足などで途絶えてしまったものもあるなかで、越生町では四つの獅子舞を守り伝えています。

越生の獅子舞は、いずれも神社の秋祭りに奉納されます。一つの獅子頭を一人で被り、三人一組で舞う「一人立三頭獅子」という形式で、大獅子と中獅子の雄獅子二頭が、雌獅子を奪い合うという筋立てで演じられます。

境内に設えた土俵(舞場)で、「ささら」と笛方の笛に合わせて、「はいおい(鯛追い・幣負い)」の先導で、三獅子が太鼓を叩きながら舞い踊ります。

ささら(彫)：四人の花子(花笠・ささらっこ・ちゃっちゃこ)が掻き鳴らす竹製の楽器で、獅子舞の通称にもなっています。